

In evolutionary terms
the artificial
environment is a
sudden new threat to
survival. What do the
senses make of it
and what is a place
anyway?

IFI '97 Ireland

テーマ「A Sense of Place」

「IFI '97 アイルランド」の
開催準備進行中
総会9月23～24日 国際会議25～28日

本部・国際委員会委員長 李 泰久

「IFI '95 名古屋」会議が、
つい先日のことのように思い
出されますが、今秋には次の
「IFI '97 アイルランド」が
「A Sense of Place」という
テーマにより開催されます。



9月23、24日、ダブリン市での「第18回総会」に引き
続き、中1日をおいて25日から28日までの3日間が「国
際会議」で、アイルランドで最も人気の高い観光地でも
ある南西部の景勝地、キラーニーで開催されます。キ
ラーニーは、温暖な気候と美しい湖、海岸、アイルラン
ド最高峰の山々などの国立公園に囲まれた、こぎれいで
シックな小さな町です。また、大自然を背景にサイクリ
ング、フィッシング、ヨット、ハイキングなども楽しま
れますし、ゴルフ好きにとっては、挑戦しがいのある本場
のゴルフコースも魅力ではないでしょうか。

テーマである「A Sense of Place」の趣旨は、現代
の生活環境がショートサイクルで激しく変化し続けてい
るために失ったもの、あるいは忘れられがちになってい
る人の「心と体」に、改めて焦点をあて、有害で混乱し
た環境から人間性を取り戻すことを、再考しようという

JID

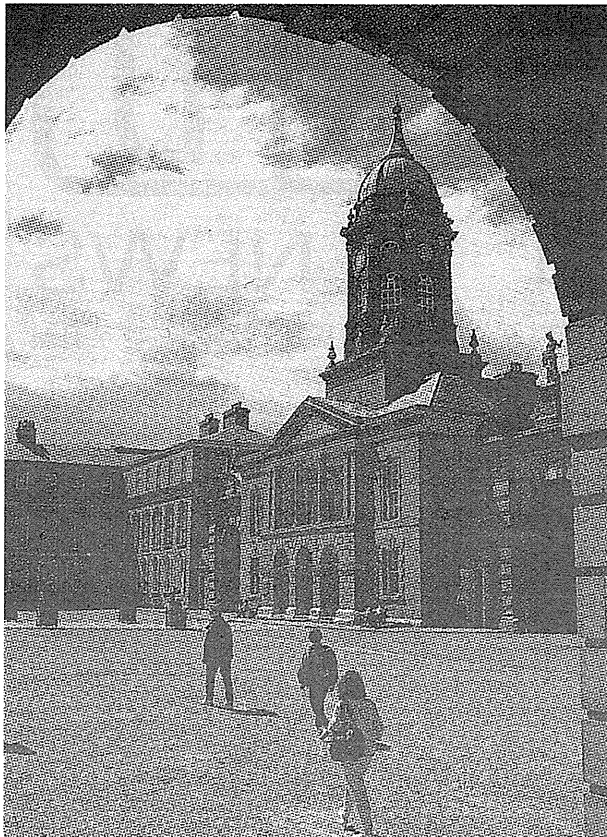
NEWS

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報

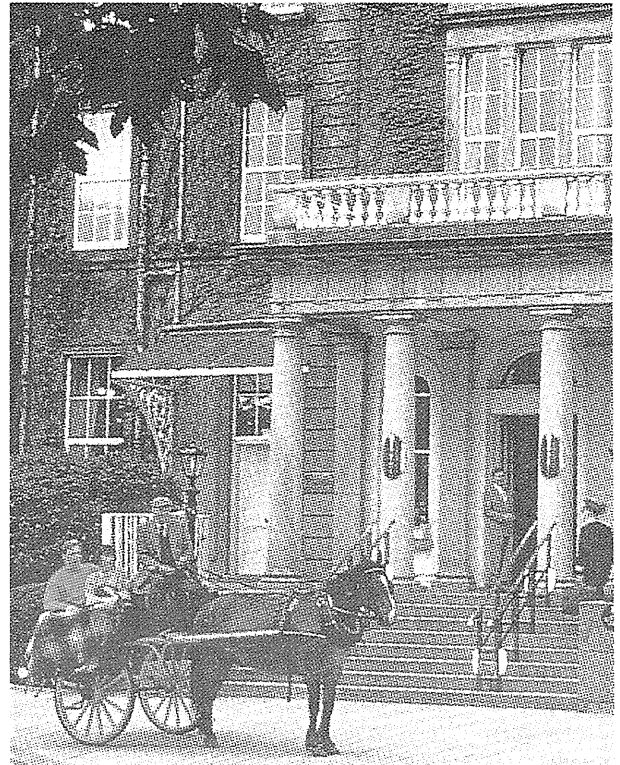
1997 3・4

「目次」

●「IFI '97 アイルランド」／1	1
●IFI 理事会 ヨハネスブルク会議報告	3
●'97 NEW YEAR'S PARTYと '96「JID賞」表彰式	4
●「意匠法」の改正の動き／2	6
●「省エネ・エコハウス三鷹」見学と講演会	7
●「ジャパンデザイン推進会議」の動き	7
●鈴木榮二君を悼む	8
●種村眞吉さんを偲んで	9
●明日館が重要文化財の指定に (設計／フランク ロイド ライト)	9
●平成8年度・第5回理事会報告	10
●「会員名簿」の頒布について	13
●「文芸美術健保」のご案内	13
●書評「シェーカー家具」	14
●新入会員の紹介	14
●お願い 李在赫	15
●JID NEWS関東	16
●JID NEWS中部	18
●JID NEWS関西	20
●JID NEWS九州	22



総会会場 ダブリンキャッスル



会議会場 グレートサウザンホテル

ことのようにです。

基調講演は、アイルランドを代表する詩人 John Montague 氏、ゲストスピーカーには皆さんご存知の Michele De Lucchi 氏をはじめ、インドや南アフリカでユニークな活動をするデザイナー、建築家など、以下のような多彩な顔触れです。

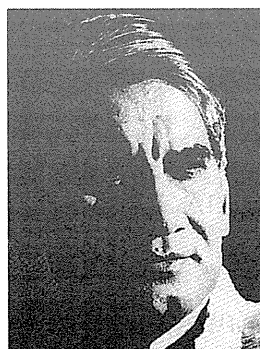
基調講演 John Montague

アイルランドを代表する詩人。アイルランド北部で育ち、フランス、カナダ、アメリカ合衆国、アイルランドで教鞭を執り、アイルランドの厳格な慣習に掬われないコスモポリタンの視野でアイルランドの生活を捉える。



Charles Correa

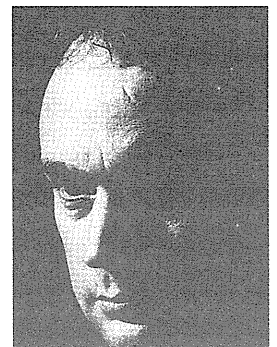
インドを活動の拠点とする建築家で、ガンジー記念館をはじめ、多種多様の建造物を手がける。第三世界における低コストのシェルター開発の先駆者でもあり、'85年には



インド政府総理大臣から都市化委員会の委員長に任命された。

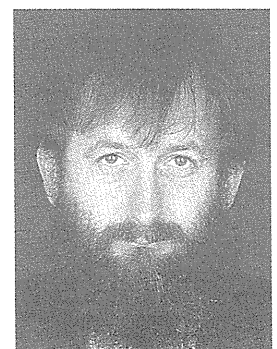
Ben Kelly

Ben Kelly Design(BKD)の創設者で、その革新的デザインは、ビル、オフィス、劇場、バーなど広範囲に及ぶ。現在は芸術とデザインのハイブリッドを狙ったものを中心に精力的に活動中。



Michele De Lucchi

'80年代、世界的にデザイン界に影響を及ぼしたデザイナーグループ「Memphis」の創設者の1人。世界に向け発信されるアヴァンギャルドなデザインは、ジュエリー、オフィス機器・家具から、インテリアデザイン・建築に至るまで様々。'94年からは、Olivettiの永世デザインコンサルタントとして活躍中。



Linda Mvusi

The Greater London Councilの資金提供で、アメ

リカ、ジンバブエ、イギリスなどで、女性や障害者、マイノリティーのための施設を手がける。'92年には、32年振りに生まれ故郷南アフリカに戻り、デザイン・建築事務所を設立。コミュニティが社会的変化の中、生活と経済の安定、社会と政治の結合に直接関与出来ていくようなデザインを推進する。



別に「エコロジー」、「将来の環境構築」、「オフィスにおけるヒューマンニーズ」、「アイデンティティと空間」、「ボディとマインド」などのテーマでのセッションが企画されています。また、パネルセッションでは「人にとっての空間」、「シェルターとテクノロジー」の2つのテーマが、参加者と一緒にディスカッションされる予定です。

以上、会議のあらましを述べさせていただきました。ヨーロッパといってもアイルランドは仲々訪れる機会がないと思います。この際奮ってご参加頂ければと念願しております。

関東事業支部の国際、教育・研究両委員会で、現在「北欧ツアー」と絡めた「IFI'97アイルランド」参加の企画を練っています。次回のJID NEWSには、その詳細がご案内出来ると思いますので楽しみに。

なお、蛇足かと思いますが、テロと紛争の北アイルランドとは全く別の安全な国ですので、ご懸念なく。念のため。

IFI 理事会ヨハネスブルク会議報告

IFI 理事 中川 帛子

「IFI'97アイルランド」の開催を半年後に控え、去る2月14日～16日、初めて南半球のヨハネスブルク市で理事会を開催した。南アは'91年に加盟以来、'95年に理事を送り、2001年の総会の主催を勝ち取るという異例の積極さで、アジアの新加盟国と共に、IFIに活力と刺激を与えている。そして今回のIFI理事会の開催に併せ、南アのデザイナー協会は、初めてのデザイン会議“DESIGNING FOR A CHANGING WORLD”を、IFIの後援で開催し、スウェーデンのO. ANDERSON氏が、“DESIGN FOR ALL”と題して障害者の生活の周辺事例を講演、参加者に感動を与えた。（参加者250名余）

理事会は、ヨハネスブルク市郊外のアフリカ部族が経営する伝統的な村にある茅葺きの会議室で行われた。アパルトヘイトが解かれ、民主国家に移行した南アの姿を目の当たりにして、最も感じたことは、多くの黒人の人々が依然として酷貧と無職のままでありながら、表情と視線が極めて穏やかであったことである。マンデラ大統領を選んだ自負と満足が、当面の平和をもたらしているのかも知れない。

今回の議題の中で特筆したいのは、私が'94年以来提案し、「IFI'95名古屋」総会で検討された理事の地域代表制の実施案が今回ようやくまとまったことである。



アフリカ村“Lesedi”のIFI理事会（左端・中川帛子IFI理事）

今後、郵便による採決を行い、会員の3分の2以上の賛成により「第18回ダブリン総会」から実施される予定。創立以来、任意の立候補者から理事を選んできたIFIにとって、初めての制度上の改革となる筈である。この制度改革によって、各地域会員に支持され選出された個人が、常に地域を代表して理事会に席を連ねることが可能になり、(アジアは希望通り2人) バランスのとれた理事会運営が期待される。

地域区分の設定については、純粋に地理的区分を採用し、オーストラリアを南半球に入れるなど、既存の経済圏APECやECの括りを踏襲しないものになった。なお、実施案の作成に当っては、JID本部・国際委員会がまとめたアジア情勢の情報が、最終実施案に反映された。

●その他の主な議題は下記の通り。

- 各理事の業務報告 ●'97総会報告文書作成準備
- 会計報告と会費未納問題 ●会員動向と入会願書
- IFI FORUM 報告(マレーシア、香港)
- APSDA 福岡会議報告
- アイルランド総会、国際会議準備報告と問題提起
- インテリアデザイナー称号保護問題
- 世界デザイン機構設立問題懇談会報告と次回バルセロナ会議
- IFI 学会会員資格問題と大学名簿改定
- IFI YEAR BOOK と CD-ROM インターネット開設関連
- 新雑誌発行準備状況(南ア・BIA 出版社計画案検討/アイルランド総会で発表)



毎年大好評の「賛助会員インフォメーションエリア」

’97 NEW YEAR’S PARTY と 1996年「JID 賞」表彰式

本部・総務委員会委員長 秋山 修治

去る1月21日(火)、標記のイベントが東京・新宿パークタワー8階『クラブスクウェア』、『グリーンズカフェ』において、140名余の参加を得て開催されました。昨年までは、関東事業支部が主催していましたが、本年からは本部・総務委員会が統括し、関東事業支部の協力を得て開催いたしました。

また、午後5時から、関東事業支部・組織委員会が中心となり、昨年同様、会員と賛助会員とのコミュニケーションをより親密なものにするため、インフォメーションエリアを『クラブスクエア』に設け、15社の参加を得て実施いたしました。進行は、組織委員の杉本弥和子さんとミュージカルタレント2名により、参加賛助会員の事業及び商品などの紹介を、大変楽しく参加者に紹介いたしました。

なお、各事業支部の協力で製作された「支部活動紹介パネル」は、このスペースの一角に展示されました。

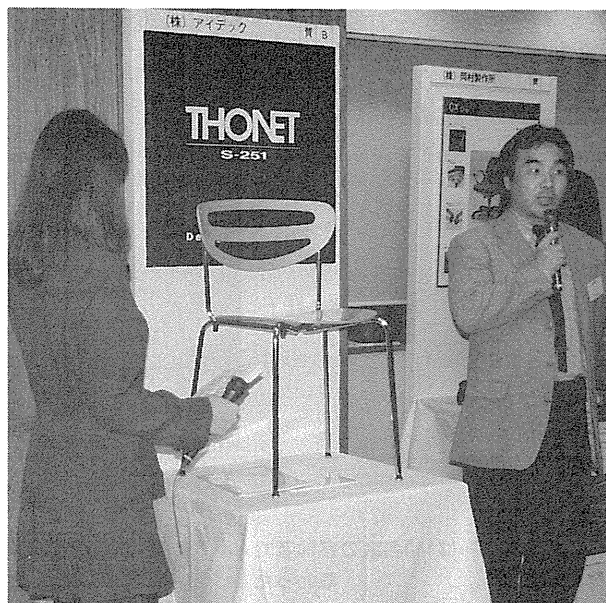
その後、6時20分から同じ会場で、1996年「JID賞」表彰式が執り行われました。長岡選考委員長から、選考経過並びに受賞者の紹介があり、泉理事長よりニューデザインの賞盾が贈られました。そして引き続き、インテリアスペース部門部門賞受賞者の藤江和子氏と、インテ

リア研究・著作・業績部門部門賞受賞の日経BP社、「日経デザイン」編集長森山明子氏から受賞の挨拶があり、さらに、両氏よりそれぞれの作品・業績紹介のスライドを交えての作品説明がありました。

7時からのPARTYは、会場を「グリーンズカフェ」に移し、本部・総務委員会と関東事業支部交流委員会の共催により開催。通産省産業政策局サービス産業課デザイン政策室・室長、清水喬雄氏を



短い時間とはいえ、説明に熱がこもる
(賛助会員インフォメーションエリア)



限られた展示スペースを、どう活用するかもポイント
(賛助会員インフォメーションエリア)



4 支部の事業活動を PR



日経 BP 社を代表して「JID 賞」を受ける森山明子氏



「JID 賞」を受ける藤江和子氏



パーティーの席で、挨拶する泉 修二理事長

始め、多くの来賓をお迎えし、ミュージカルタレントによる歌とプレゼント商品のくじ引を加え、楽しいひとときを過ごすことができました。

記録写真

提供/「インテリアタイムス社」



パーティーは140名余の参加者で賑わった



パーティー会場では、新入会員の紹介も

「意匠法」改正の動き／2

デザイン保護委員会委員長 井上 昇

昨年から継続していた30数年振りの意匠法改正に伴う日本デザイン団体協議会（通称・デザイン8団体）による「デザイン保護研究会2、意匠制度研究会」は、去る3月11日の第5回をもって取り敢えず終了した。8団体の代表としては㈱日本グラフィックデザイナー協会の佐野 寛氏が、特許庁の本会議ともいえる「意匠制度検討特別委員会」に出席した。

一方、そこに向けたデザイン団体としての要望及び状況報告を兼ねたこの会議には、通産省デザイン政策室長清水喬雄氏他、小林裕和氏が毎回出席され、具体的かつ活発な討議が続いた。JIDからは、今崎 務担当理事、関口正己副委員長と私が出席した。今回の改正項目は沢山あるが、主な内容は次の通り。

- ① 早期保護の実現のため、現在平均22ヶ月かかっている登録審査を、1年にするための早期審査制度の導入。（DR-1計画）
- ② 早期保護のための制度的対応として、出願公開制度と無審査制度の併設の検討。
- ③ 広く強い権利の実現のために、保護要件の見直しと部分意匠の登録保護、模様のための意匠保護、アイコン、ピクトグラフの保護について。
- ④ 的確な権利形成のために、日本だけの制度である類似意匠の見直しと、キッチンセット、応接セットなどのシステムデザインなどの保護権利範囲の明確化。
- ⑤ 手続きの簡素化（ユーザーフレンドリーな制度）として、多意匠1出願制度（多件1通制度）の導入や願書、図面記載要件の簡素化。
- ⑥ その他として、訂正審判制度、権利期間、拒絶確定出願などの先願の地位。権利侵害に対する適切な救済など。

これらの協議を行い、最終的に㈱日本デザイン保護協会、意匠制度検討特別委員会報告書（案）が作成され、特許庁内部での審査会に提出された。

この報告書（案）をご希望の会員の方は、1部につき

1,000 円分の切手を、本部事務局宛にご送付頂ければお送りいたします。

「省エネ・エコハウス三鷹」見学と講演会

本部・教育／研究委員会委員 清藤佳余子

「明日の住まいを考える」をテーマに見学と講演が行われました。見学したのは、2カ所、「高齢対応の住宅」と「省エネルギーモデルハウス」でした。なかでも後者は、A棟（高気密・高断熱タイプ・芝屋根）とB棟（パッシブソーラータイプ・珪藻土）がアトリウムで結ばれ、2世帯住宅の生活提案として特に興味深く見ることができました。改めて初夏に訪れ、A棟の緑芝屋根とB棟のプール水面からの涼風を体験してみたいと思っています。また、B棟の壁に使用されていた「珪藻土」は、天然無機系土壁として知ってはいましたが、実際に展示場に使用されていたことで感動を得ました。

一方、講演の方は、『環境とエネルギーと快適性の両立』というテーマで、講師は省エネルギーモデルハウスの設計者、西郷徹也氏。（東京電力㈱都市・生活システム部課長）

講演内容は地球温暖化・電力需要の夏ピークの原因は冷房需要・建築分野の占める炭酸ガス排出量・ホルムアルデヒド・換気・冷暖房システムなど多岐に亘るものでした。

いろいろな話の中で、特に興味深かったのは、「トータルエネルギーデザイン」です。省資源・省エネルギーが問われる背景には、地球環境問題があります。居住にかかる消費エネルギーと建設にかかる消費エネルギーを併せて評価しながら、居住環境づくりをデザインする必要があること、もう1つは「給排気セントラルダクト方式」です。高気密・高断熱住宅の設備計画には、ダクト内部の汚染物質検出換気システムが必要なことでした。

私たちは必要な情報を活かし、これからは自分達はもちろんのこと、次世代のために〔住まい〕について広く多くの人の知恵を出し合うときだと感じました。

今回の見学と講演会に、各支部からの参加と関東事業支部教育・研究委員会の方々のご協力にお礼を申し上げます。今後の活動への情報やご意見がありましたら、ぜひご協力をお願いいたします。

「ジャパン・デザイン推進会議」の動き

本部・総務委員会副委員長 杉 富士雄

『JAPAN DESIGN』は、日本のデザインとデザイナーを、広く世界にプレゼンテーションするインターネットホームページで、(財)日本産業デザイン振興会・デザイン人材開発センターが、日本デザイン団体協議会（通称デザイン8団体）に、共同事業化を呼びかけているものです。

その内容は、デザイン8団体の活動の紹介、8団体所属のデザイナー及びデザイン事務所の活動や作品の紹介（Who's Who）、Gマーク商品や関連資料の公開、デザイン関連のイベント案内などで、日本のデザイン活動の今を、国内外に向けてグローバルに紹介していこうというものです。

この『JAPAN DESIGN』の共同事業化を推進するに当たって、種々検討する場として「ジャパン・デザイン推進会



西郷徹也氏の講演を聞く（住まいの省エネルギーと高齢者対応を考える）

議」が組織され、当協会は、本部・総務委員会が担当し、複数の委員が会議に参加してきました。

デザイン人材開発センターでは、この度の会議で討議されたことを成果としてまとめました。デザイン8団体に提出された内容を以下に要約してご紹介いたします。

1. 団体ホームページの開設

①各団体のホームページを『JAPAN DESIGN』に開設する。JIDとしては、他団体と共にとりあえずの対応として「暫定版」を掲載する。

2. 「Who's Who」の開設

①全会員の氏名一覧（50音順）を掲示する「Who's Who」を開設する。（名簿的なもの）

②『JAPAN DESIGN』の閲覧者が、デザイナーの専門分野または、依頼したい業務内容の双方から会員を検索できる仕組みにする。

③『Who's Who』では、氏名または、専門分野の双方から検索できるようにする。また、個人のホームページにもリンクできるようにする。

これらの提案に、JIDはどう対応すればよいのか、'97年はインターネット元年になりそうです。

【JIDのホームページが開設されました】

昨年10、11月号のJID NEWSにも紹介しましたが、この度、(財)日本産業デザイン振興会がサーバー（大型コンピューター）を持ち、運営しているインターネットホームページ『JAPAN DESIGN』の中に、JIDのホームページが開設されました。

現段階の各団体のホームページは暫定的な開設ですが、今後共、デザイン8団体が協調し合いながら運営し、より良いものにしていくことになります。興味のある方はぜひ覗いてみてください。

なお、『Who's Who』については、デザイン8団体の会員を対象に、デザイナー個人及び作品を紹介するものです。今後、デザイン8団体がそれぞれの会員の賛同を得て、逐次整備されていくことになるでしょう。

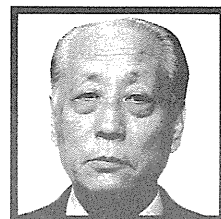
インターネットホームページ『JAPAN DESIGN』のアドレス

<http://www.jidpo.or.jp/japandesign/>

鈴木榮二君を悼む

関東事業支部会員 大隅 照雄

人生わずか50年と言われた時代であれば、よく生きたと褒め言葉もあるが、80年まで伸びた人生である。彼は余りにも早く急ぎ、足に手の届かぬ黄泉に旅



立ってしまった。それも、母親よりも先に身まる淋しさ。何処を見紛うたものかと、残された者達は思い悲しみ、葬儀の祭壇に向かってお孫達が眼を腫らせた姿にご焼香の縁者の涙を誘っていた。冷たい空気を一層凍らせて、鼻詰まらせ眼をしばたせていた鈴木榮二君の他界。

東京都立工芸高校入学の昭和16年の大東亜戦争の始まり故に、不十分でしか無かった当時、2年生後半より軍需工場の勤労働員に駆り出されたことなど、同じ辛さが重なり合って榮二君の思いが駆け巡って来る。

クラスの中には鈴木が三人在籍していたが、「榮二」、「榮二」の愛称で呼ばれて、皆の人気者であった。そんな人柄の良さもあって、クラスの纏め役であった。そして、級会では何時も先頭に立って笑顔を絶やさずに頑張っていたのが強く印象に残っている。

実業界入りした榮二君は、始め日本ビクター木工技術課に勤務、音響機器のデザインを手がけていたが、その後、昭和26年以降(株)睦屋に移り、室内設計及び家具のデザインを担当し、定年後も睦屋の業務を引続き務めていた。また、(社)日本インテリアデザイナー協会及び日本人間工学会のほか、日本流行色協会に所属し専門委員としても活躍した。

鈴木榮二君は明るい性格で、人との和を大切にし、一期一会をモットーとして、協会などにおいて欠くことの出来ない重要なパートナーだった。総会の議事録の作成、見学会や企業訪問などでは多くの会員と共に積極的に参加し、協会の発展に忘れることの出来ない存在だった。これは永年に亘る献身的努力の蓄積により寄与した成果で、本人も満足されていたと思う。病むこともなく急逝の訃報に関係者のすべての人々は驚きと共に、暫くは埋め合わせるための影響が少なからず生ずることと思われ

るが、日頃の榮二君の努力に感謝しつつ、これからもJIDほか、つつがなく発展することを報告し、謹んでご冥福をお祈りしたい。

種村眞吉さんを偲んで

関西事業支部会員 安永 一典

若い頃にお世話になった方がこの世を去られると、僅かばかりの青春の残滓が、一つずつ消えてゆく思いがする。

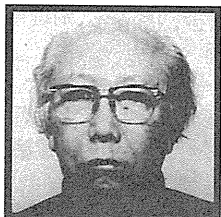
種村さんが逝去された訃報に接し、ひたすらご冥福をお祈りする次第である。

右も左も分からずに、川崎重工に入社したときの居住艙装の係長が種村さんであった。世の中にこんな恐い人がいるのかと最初はおののいたが、それも仕事の厳しさを教えて頂いた故であった。その裏に穏やかさとユーモアが隠されているのに気が付くのに、時間はかからなかった。自分は5年余りで退社したが、その後も仕事や会合で度々お会いし、40年間親しくさせて頂いた。

社会の一線を退かれてから、船舶の内装関係の著作に専念される傍ら、フルートの練習をされ、演奏会も開かれたと伺っている。幸か不幸か、一度も聴かせて頂いたことはなかったが、謹厳なご性格の中に、豊かな感受性と、高い文化性を持ち合わせておられたことは、衆知の事実であった。

5年程前、船舶のことに關して、失礼にも電話で質問させて頂いたことがある。それが最後となってしまったのだが、いま考えると、直接お伺いして、親しく盃を交わさせて頂くべきであったと、自分の怠慢を今更の如く、忸怩たる思いで噛みしめている。

また、お1人、個性的で印象深い方を失ってしまった。思いは尽きない。合掌。



F.L.ライト設計による「自由学園明日館」重要文化財の指定に決定

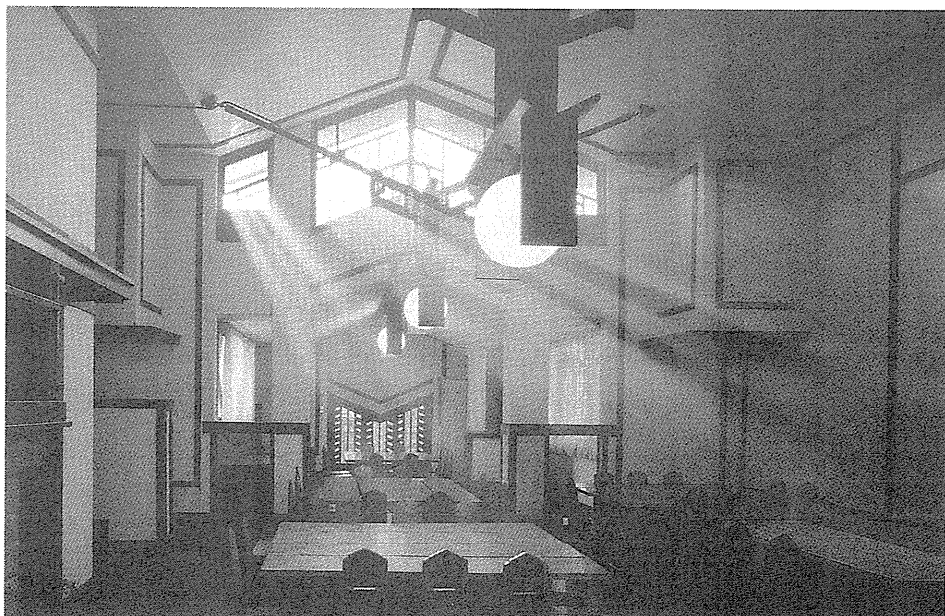
関東事業支部会員 横江 禎子

3月21日のTVニュース、さらに22日の新聞各紙で報道されたように「^{みょうにちかん}明日館」が、国の重要文化財に指定されました。

明日館は、1921年（大正10年）旧帝国ホテル建設のため来日中のフランク・ロイド・ライトと、その高弟遠藤新の設計により東京・豊島区に建設された建物です。ライトは自由学園創立者羽仁夫妻の教育思想に共鳴し、「外形を簡素にして、優れた思いをその中に充たしめたというのが、自由学園の理想の一つです」という羽仁もと子氏の言葉通り、デコラティブな帝国ホテルとは異なる簡素なデザインの建物を創りました。

地盤と床が同レベルの大地を這うような校舎は、当時の武蔵野の自然と調和し、教育の場にふさわしいものでした。自由学園は生徒の増加に伴い1934年、現在のひばりが丘校舎に移転し、その後、明日館と名付けられた校舎は卒業生の活動の場として、老朽が激しい中、現在でも大事に使われています。

明日館の保存運動は、1987年秋の日経アーキテクチュア「残しはしたいが資金無し、その日が迫ったライトの名作」という記事に端を発します。歴史、教育、建築各分野において、意義あるこの美しい建物を、次世代に引

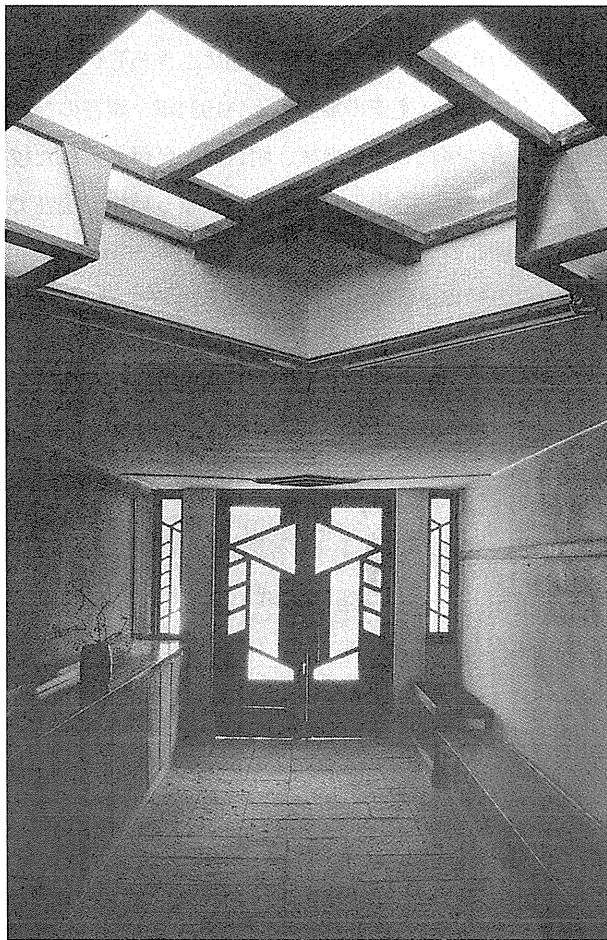


自由学園明日館・食堂 撮影／畑 亮

き継ぐことは、明日館老朽期に生きる者の責任と信じ、私も微力ながら多くのメンバーと共に、9年余り保存活動が続けてきました。

この間、30余号の明日館レポートの発行、年3回の催し開催のほか、同じ思いの建築家グループに協力して、N. Y. タイムズへの意見広告掲載、「国際シンポジウム」開催、「日本に残るライトの建築展」開催（国内4会場、ワシントンD.C.）などで、広く世界に協力を呼び掛けてきました。

この度の指定は、自由学園の英断により、私たちが当初から希望していた重要文化財指定による動態保存という喜ばしい結果となり、活動が終了できることを大変嬉しく思います。そして9年の間に当協会、支部委員会、また多くの会員の方々から頂きましたご協力ご激励に、この場をお借りしてお礼申し上げます。



自由学園明日館・中央棟玄関 撮影／畑 亮

【 平成8年度・第5回理事会報告 】

①会議名：平成8年度・第5回理事会

②日 時：平成9年1月21日（火）13：30～16：30

③場 所：(社)日本インテリアデザイナー協会

本部事務局 会議室

東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー 8F

④出席者：理事総数15名中（本人出席13名）

（理事長）泉 修二

（副理事長）中川帛子

（理 事）浅野盛治、今崎 務、岩倉榮利、

吉良ヒロノブ、関 里繪子、

中川千年、長岡貞夫、夏原晃子、

福田友美、山口道夫、

森谷延周（事務局長）

（委任状）中川千早

（欠 席）浅田弘之

（監 事）金子誠之助、川上信二

⑤議 題

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

第2号議案 会員入退会承認の件

第3号議案 議事録署名人選任の件

II. 報告事項

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

(2) 本部・委員会の事業推進について

(3) 新名誉会員推挙について

(4) '97年～'98年会員名簿制作について

(5) 平成8年度会員入退会状況

(6) その他

⑥議 事

森谷事務局長より「理事総数15名中、本人出席13名、委任状1名で本理事会は成立した」旨報告。引続き、泉理事長が議長となり議事に入った。

I. 議 案

第1号議案 後援・協賛名義承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は、下記3件について説明した。議長は、3件に関して承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

◎「第5回 東京国際額縁と絵画フェスティバル」

後援・継

1997年9月11日(木)～13日(土)

主催 TAFF実行委員会

◎「第2回 アーキテクチャ東京」 協賛・継

1997年3月11日(火)～14日(金)

主催 (株)日本能率協会

◎「第43回東京インターナショナル・ギフト・ショー
春'97」 協賛・継

1997年2月19日(水)～21日(金)

主催 (株)日本能率協会

第2号議案 会員入会承認の件

議長は、事務局長に説明を求め、事務局長は下記29件について説明した。

議長は、承認を諮り、いずれも異議なく承認された。

入会 正会員(6件)

氏 名	支部	保 証 推 薦 人
山 本 雅比古	関東	長堀 映司・下津浦和子
桑 田 佐 智	関西	金子誠之助・山崎 晶
永 峰 初 穂	関東	中川 帛子・東島 昌子
関 口 洋 司	関東	峰尾 武・田村 昭夫
廣 澤 栄 一	関東	森谷 延周・福田 友美
本 沢 和 雄	関東	藤川 征輝・川上 玲子

退会 正会員(21件)

氏 名	支部	
小 西 純 代	関東	定款第8条2項(4)による 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上 同 上
袴 田 穰 一	関西	
森 田 弘 二	関東	
眞 水 公 雍	関東	
岩 本 勝 之	関東	
川 野 明	関東	
遠 藤 誠 之	関東	
山 崎 尊	関東	
神 戸 靖 二	関東	
近 藤 寛 美	関東	
龍ノ口 征 雄	関東	
夏 目 英 寿	関東	
野 田 晋 一	関東	
洪 達 仁	関東	
矢 作 彩 子	関東	
古 川 幹 英	関東	
石 村 徹 之	関西	
松 山 嘉 男	関西	
由 本 順 一	関西	
伊 東 隆	関西	
尾 崎 鳩	関西	

入会 賛助会員(1件)

社 名	支部	紹介者
グラナイト エス・エー・エム	関東	中川 帛子

退会 賛助会員(1件)

社 名	支部	
松川室内設計工程(株)公司	関東	定款第8条2項(4)による

第3号議案 議事録署名人選任の件(2名)

議長は、夏原晃子、福田友美両理事の承認を諮り、異議なく承認された。

II 報告事項

議長は、各事業支部及び本部各委員会については各担当理事、(2)本部・委員会の事業推進については泉理事長、本部事務局については事務局長に活動に関する報告を求め、それぞれが資料を基に報告した。

(1) 各事業支部及び本部各委員会事業推進状況

●関東事業支部(吉良)

「'97 NEW YEAR'S PARTY」賛助会員インフォメーションエリアの出展状況、及び「省エネエコハウス三鷹」見学とパネルディスカッション(2月25日)の実施計画を中心に報告

●中部事業支部(関)

AD コア社見学会と新年会(1月18日)の実施、及び大学・専門学校の卒業制作優秀作品の選出表彰について報告。なお、JID ホームページ開設計画などについても言及した。

●関西事業支部(夏原)

各委員会の活動状況のほか展覧会(委)主催による「百人百灯展」(12月20日～25日、会場 ATC、91名参加、147 点出品、来場者 600名)が成功裡に終了した旨報告。

●九州事業支部(中川千年)

九州インテリアデザインコンテストの審査に、九州事業支部会員4名が参加したことの報告。及びデザインイベントの JID 参加協賛金に関して、事業補助費の増額を要望したいとした。

●選考委員会(長岡)

本日、1996年「JID 賞」表彰式を行うことと、制作した賞盾のデザインを披露した。

●総務委員会（浅田）

浅田担当理事入院中につき、代って事務局長が代理報告。

本日開催の「'97 NEW YEAR'S PARTY」の全体準備状況、及び「業務の受託・斡旋に関する細則」改訂（案）について、次回理事会に提議したい旨報告。

●組織委員会（中川帛子）

前回理事会承認の名誉会員に関する規定改訂について、細部の調整作業を行っていること、及び改訂実施時期を平成9年4月1日としたい旨報告。

●国際委員会（浅野）

IFI 理事地域代表制について、関係する協会の意見の取りまとめを続行中であること、及び「IFI '97 アイルランド」について、関係する委員会と調整の上、ツアー、セミナーの企画を検討している旨報告。

●交流委員会（岩倉）

「夢みなと博（境港市）」、「デザイン供養（淀江町）」などに絡む第3回「本の学校」大山緑陰シンポジウム、第6分科会「デザインとマルチメディア」仮題へのJID参画について状況を報告した。

●広報委員会（山口）

「広報」に関して、正会員と賛助会員の接点、関連する委員会への呼びかけなどを考えたいとした。

●事業委員会（福田）

インテリアコーディネートブックの企画編集、デザイナーズエイド1997計画（4月19日～20日・OZONE）、及び受託事業の実施ルール、参加希望登録などに関する骨子を報告した。

●教育・研究委員会（中川千早）

中川千早担当理事委任出席のため、事務局長が代理報告。

この1年間のしめくくりとして、「省エネエコハウス三鷹」見学とパネルディスカッションを2月25日に開催するため、その準備を行っている旨報告。

●デザイン保護委員会（今崎）

日本デザイン団体協議会（通称デザイン8団体）

に歩調を合わせ、「意匠制度」改正に関する検討を継続している旨、「テスト」を主に報告。

(2) 本部・委員会の事業推進について

泉理事長より、創立40周年を控え、事業の基礎的問題に関して、次回理事会に提議したいとした。

(3) 新名誉会員推荐について

資料に基づいて白石勝彦、坂田種男、渡辺輝男、片谷充克、大内一雄、竹中幸雄、林 寅正、大和保雄の8会員が平成9年度からの該当者であると報告。のちに諾否の打診を行う予定。

(4) '97年～'98年会員名簿制作について

資料により制作の進行状況を報告した。原稿の返信率は70%、製作予算獲得のため各理事、各支部の協力を再度要請した。

(5) 平成8年度会員入退会状況

資料に基づいて平成9年1月21日現在の入退会状況を説明。特に正会員の退会が際立っているが、昨今の経済状況が最も影響していると思われる。

(6) その他

・'97 NEW YEAR'S PARTY 招待リスト

・訃報 大河原 清（名誉会員）

平成8年2月22日逝去 享年80才

大泉博一郎（名誉会員）

平成8年12月6日逝去 享年93才

鈴木 榮二（正会員／関東）

平成9年1月6日逝去 享年68才

種村 眞吉（名誉会員）

平成9年1月6日逝去 享年77才

・次回理事会開催予定（'96第6回）

平成9年3月25日（火）

訃 報

当協会、浅田弘之副理事長は病氣療養中でしたが、去る4月7日午後4時50分、ご逝去されました。謹んでお知らせいたします。

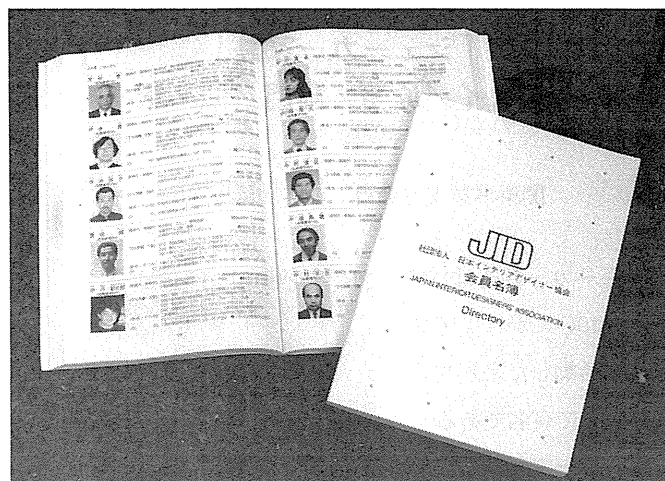
生前のご厚誼に感謝し、心よりご冥福をお祈り申し上げます。
(本部事務局)

1997～1998年「会員名簿」の頒布にご協力を
1冊 6,500円、各支部事務局へ

事務局長 森谷 延周

「会員名簿」の制作はJIDの基幹事業の1つです。
本部事務局では、隔年発行のサイクルに沿って、去る4
月中旬、会員をはじめ多くの方々のご協力によって、よ
うやく完成させました。そして、会員、官公庁、諸団体
教育機関、マスコミなど約1,000部を配布いたしました。

余部については、各支部事務局にストックし、有料頒
布を行っていますが、併せて会員の方々からも、周囲に
PRして頂き、JIDの財源となる「頒布料収入」のアッ



1997～1998年「会員名簿」表紙と見開き
部にぜひご協力をお願いいたします。

なお名簿の販売価格は、1冊 6,500円（消費税込）で
すが、くわしくは各支部事務局にお問い合わせください。

~~~~~

平成9年度「文芸美術国保」のご案内

会員の中でも、「文芸美術国保」の有利さから、毎年加  
入する方が増えてきています。

去る3月5日、平成9年度（4月1日より）の保険料  
について、「別表」とする旨連絡がありました。

下表のように、場合によっては、組合員月額10,200円、  
家族1名4,600円で「一般国保」より有利です。特に家  
族数の少ない方に、ご加入をお勧めいたします。

なお、昨年度より保険料の納入は、指定銀行口座から  
の引落しに変更となりました。

●加入ご希望の方は本部事務局までお問い合わせ下さい。

文芸美術国民健康保険組合と東京都23区の保険料比較表

（平成9年4月）

|                     | 組 合 保 険 料<br>組合員(月額)<br>10,200円<br>家 族(月額)<br>1人 4,600円<br>年 額 | 東京都23区保険料年額<br>(住民税×162.0/100+家族1人につき22,500円)<br>賦課限度額52万円 |         |         |         |         |         |
|---------------------|----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
|                     |                                                                | 9年度の住民税（特別区民・都民税）                                          |         |         |         |         |         |
|                     |                                                                | 10万円                                                       | 15万円    | 20万円    | 25万円    | 30万円    | 35万円    |
| 単身者                 | 122,400                                                        | 184,500                                                    | 265,500 | 346,500 | 427,500 | 508,500 | 520,000 |
| 家 族 1 名<br>(世帯人数2名) | 177,600                                                        | 207,000                                                    | 288,000 | 369,000 | 450,000 | 520,000 | 520,000 |
| 家 族 2 名<br>(世帯人数3名) | 232,800                                                        | 229,500                                                    | 310,500 | 391,500 | 472,500 | 520,000 | 520,000 |
| 家 族 3 名<br>(世帯人数4名) | 288,000                                                        | 252,000                                                    | 333,000 | 414,000 | 495,000 | 520,000 | 520,000 |
| 家 族 4 名<br>(世帯人数5名) | 343,200                                                        | 274,500                                                    | 355,500 | 436,500 | 517,500 | 520,000 | 520,000 |

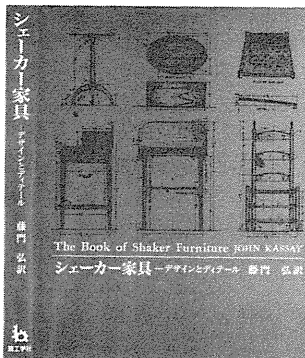
（注）太線内に該当する方は、「文芸美術健保」の方が、収入に拘わらず一率料金のためお得です。

## 書評「シェーカー家具」 J. キャセイ／原著 藤門 弘／訳

関東事業支部会員 森谷 延周

シェーカー教徒は18C後半～19Cにかけてアメリカで活動した宗教的共同体として有名である。シェーカー主義の基本は、一般社会から離れ、財産の共有、独身主義、両性の平等など、完全な自給自足の社会をつくっていた。そして彼らの日常生活は、労働と信仰のくり返しだった。そして彼らの日常生活は、労働と信仰のくり返しだった。その成長はめざましく、1850年頃には頂点に達し、6000人以上の教徒が18の共同体をつくり生活していた。

1770年代末頃から、自らが使う家具を作り始めたが、家具を作ることは祈りであり、宗教的義務の達成や共同



体全体の使命につながると捉えていた。私たちがよく知る「シェーカー家具」で最も有名なのは、スラットバックまたはラダーバックの椅子だろう。一連の椅子は、彼らが作った家具の中でも唯一量産され、外部にも販売した。

彼らの教義に基づく純粋な生活形態が、形と構造を単純化し、手づくりで飾り気のない家具を生み出したのである。虚飾を排し、眞の美を機能性の表現とする思想は、20Cの機能主義デザインの理論に通じている。

本書は、「シェーカー家具」の研究に没頭したジョン・キャセイ教授（米）の原著を、藤門 弘氏が翻訳したものである。最大の特長は、詳細にして克明に記したユニークな寸法入り図面であり、これに実物写真と解説を加えて構成してある。

近年、天然素材としての「木の家具」が注目されているが、シェーカー家具は全て「木の家具」である。「木の家具」は家具の原点であり、人間の心に良くなじむ。この本によって、シェーカー家具の歴史と研究と実際に触れることができる。

●(株)理工学社 定価 9,785 円/A4 変型版 288 頁

## 【 新 入 会 員 の 紹 介 】

●新しく会員になられた方々です。新しい仲間としてよろしくお願いいたします。

### ●正会員

| 会員名及び番号                                                                                                             |                                       | 住 所 及 び 電 話                                                                                                                                             |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| いちかわ のぶ<br>市川 実<br>会員番号 1140<br> | <勤務先・事務所><br><br><自 宅><br><br><推 薦 者> | (株)パーズ・アイ<br>東京都新宿区西新宿4-32-6 パークプレイス新宿1204 〒160<br>TEL 03-5371-4724 FAX 03-5371-4735<br><br>東京都練馬区下石神井5-2-17 〒177<br>TEL 03-3995-3227<br><br>阪井 良種・入江 満 |

### 予 告

「第29回 通常総会」及び「第4回関東事業支部総会」を右記により開催します。

また、終了後には「懇親パーティー」を計画中ですのでご予約ください。

●日時／平成9年6月6日（金）午後～夜

●場所／新宿パークタワー 8F

セミナールーム、クラブスクエア  
(本部事務局)

## 「資料提供のお願い」

関東事業支部会員 李 在赫<sup>り じょひやく</sup>

私は今、三星自動車の常設ショールームのプロジェクトを進めています。つきましては、以下の「参考資料」を入手したく、勝手ながらお願いしたいのです。

1. MALUX（東京・池袋所在）のような大規模から、小規模でもデザイン上、良くできている自動車ショールーム。
2. 世界中の代表的といわれる自動車ショールーム

### 3. そのほか、参考となる資料など。

これらの名前や所在地など。多くの情報をFAXして頂けると幸甚に存じます。よろしくお願いいたします。末文ながら、会員の皆様、お体をご自愛ください。

#### 〈連絡先〉

三星生命 Service(株) Interior事業部  
韓国 Seoul 市永登浦区汝矣島洞 36-1、  
三星生命ビル11F

TEL 821-3770-4820 FAX 821-3770-4899

## [ JID 頒布物価格リスト ]

|                                                  | 会 員      | 会 員 外    | 送 料                 |
|--------------------------------------------------|----------|----------|---------------------|
| 会 員 名 簿<br>'97 ~ '98 年版                          | 3, 5 0 0 | 6, 5 0 0 | 3 8 0               |
| 機関誌「インテリアデザイン」<br>No.113 ('93) No.114 ('94)      | 1, 2 0 0 | 1, 5 0 0 | 3 1 0               |
| 世界のインテリアデザイナー作品集                                 | 6, 0 8 0 | 7, 6 0 0 | 4 5 0<br>会員 3 冊以上着払 |
| 報酬基準ガイドライン<br>(インテリアデザイン・プロダクト)<br>(デザインを 1 セット) | 2, 4 0 0 | 3, 0 0 0 | 2 7 0               |
| 大 型 会 員 証<br>(正 会 員 用)                           | 3, 5 0 0 |          | 1 9 0               |
| Please be Seated<br>(IFI edition)                | 1, 2 0 0 | 1, 5 0 0 | 2 4 0               |
| Green Design Checklist<br>(IFI edition)          | 7 0 0    | 8 0 0    | 2 4 0               |
| ID カード<br>(正会員・名誉会員用)                            | 1, 5 0 0 |          | 1 3 0               |

(1997 年 4 月現在・消費税込・円)

(注) ご希望の方は、本部事務局にお問い合わせください。

(TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559)

## 北海道エリアの活動の中で思うこと

関東事業支部 交流委員会 佐野 日奈子

私がJIDに入会させて頂いてから、もう10年近く経とうとしております。

当時、北海道の会員は、ほんの数人、しかも女性会員第1号ということで、ひどく緊張したものです。北海道に住んでいるのに関東事業支部所属ということは少し変なのですが、人数から言っても支部をつくるには無理があります。所属支部や本部事務局から遠い地方会員の私たちには、メリットは如何に！と言う問題があるのですが…。

参加したくても、折り合いがつかなければ行けないセミナー・見学会・展示会の数々。会員同志の交流会など。出来ないことを考えるより、回数は少なくとも、参加する機会を自分からつくるなり、より積極的な姿勢で臨むことだと思っています。

幸いにして、私の仕事上の行動半径が広いので、東京・大阪・名古屋ほか、様々な場面でJIDの皆様とコミュニケーションを持つ機会が多くあります。5年程前から、関東事業支部の交流委員会に入れて頂き、時折り、

文字どりの交流会に参加したり…といった具合に、割合活用させて頂いている方だと思っております。

そのほかの最大のメリットは、中央からの情報が得られることです。地方で、個人的に活動しては得られない数々の情報と、会員の方の動向を知ることにより良い刺激にもなります。

そんな中で、ぜひ、北海道の中で定着させてゆきたいと思っていることがあります。というのは、私たちの住む北海道は、大変広く、アクセスの問題1つとっても、道内の会員が集まるのは難儀です。しかし、“デザインシティ宣言”を出した家具の産地、旭川がほぼ中央に位置しており、また、4年制のデザイン科を持つ東海大学もある街で、3年に一度開催される木の椅子のコンペを含めた「デザインフェア」のときには、道内外から、実に多くのJIDのメンバーが集り、一寸した「JIDin 旭川」といった様相を帯び、個々に交流できる良い機会となります。（写真参照、他にも大勢いらっしゃいます）

こういった良いチャンスに、世界中からの応募が増え続け、成長しているこのコンペを後援する意味合いから、JIDとしての交流会・セミナーなどを開けたらと思うのです。地方会員は、メリットが少なくて…と嘆く前に、前向きに自分なりの関わり合い方を凝らして、より意義のあるものとして、JIDに参画して行けたらと



「国際家具デザインフェア 旭川」'96年7月、岩倉、山本さんらと



オーストリア/パウマン社にて、'95年9月 Mrs. パウマンと



思っております。

See you next in ASAHIKAWA 99'

## 関東事業支部のカバーするエリア

関東事業支部 広報委員会 佐藤 雅樹

北は北海道から新潟、信州を含めて南は静岡までという地域が、関東事業支部のカバーするエリアだ。

地図上の「関東」からすると、大分大きくずれているのだが、支部構成などで仕方なくとも聞いた。

しかし、大げさに言えば、この「関東事業支部のカバーするエリア」には、歴史上の事実やアジア的視点という意味合いも含めて、まちがいなく一つの大きな文化圏が形づくられている、ということが言えるのである。

もちろんその中を、もう少し小さく細分化することも出来るし、それぞれの時代の中で、それぞれの地域の役割も違えば、人々の体験してきた歴史も違うはずだ。

我々が日頃、なりわいとしている「インテリアデザイン」という生活文化を創造する仕事は、実は、この地域性と大きな関係があるのではないだろうか。

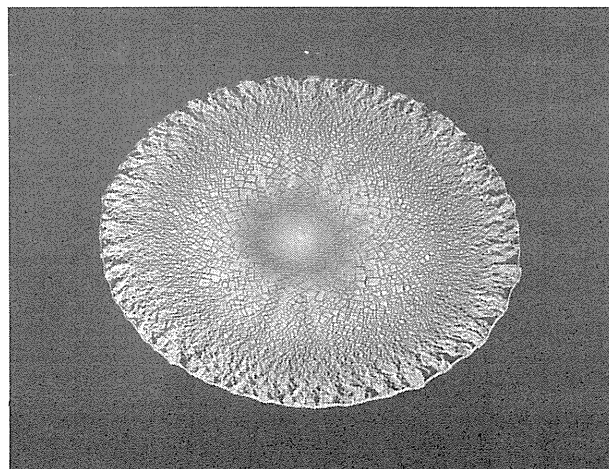
今回、【JID 関東】の記事を、北海道の佐野日奈子会員にお願いしたのは、会員の参加性という問題以前に我々関東事業支部の側からの、積極的な関東エリア全域へのアプローチが重要との指摘からである。

偶々私は、札幌、旭川などに行く機会が多く、彼の地のデザイナーや作家、企業人と会って、話をすることが時々ある。

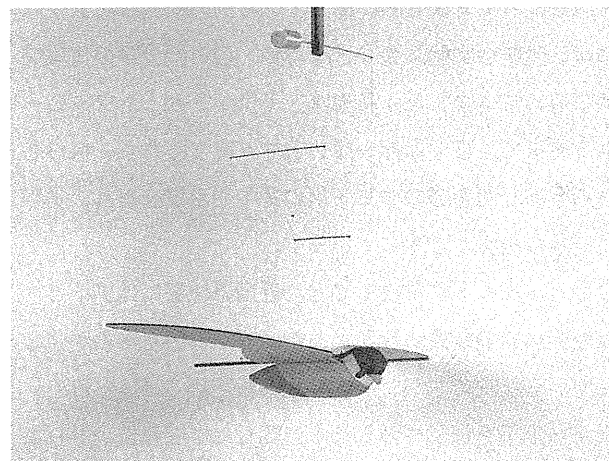
そんなときに、いつも思うことだが、彼らの生活文化に対する思想や東京とは違う意識、魅力ある造形は、どこから来るものだろうと。

先日にも匠芸の中井啓二郎さんや淳工房の菅井淳介さん、モバイルアートの早見賢二さんなどに会ってきた。

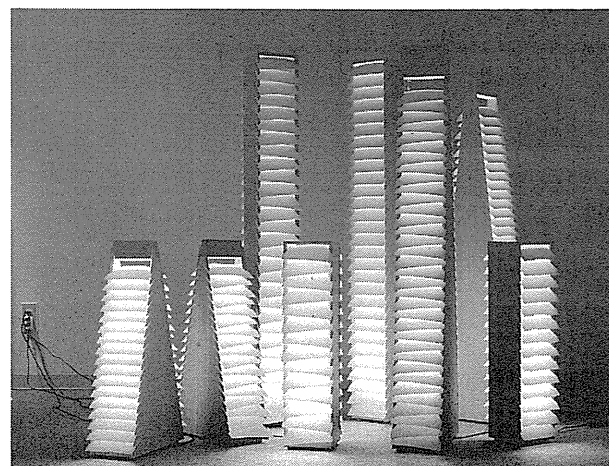
今後、この【JID 関東】のスペースで関東エリア全域の会員の動向を、地域文化という視点なども織りまぜながら取り上げて行きたいと考えている。



淳工房・菅井氏の「虹彩栢硝子」



早見氏の「チゴハブサモバイル」



匠芸、中井氏の「エゾ松を使ったフロアランプ」

## 交流部会報告

アトピー性皮膚炎などの室内環境が関係する  
疾患への対策研究会（名古屋）の活動報告

中部事業支部交流部会長 木辺 智子

平成7年12月に発足したこの会も、1年が経過し、去る平成8年12月15日に総会と症例報告会が行われました。この会は、アトピー性皮膚炎の室内環境対策に取り組む、医師・研究者・建築士・有害生物防除業者などの集まりで、患者さんの求めに応じて各家庭を訪問し、目に見えないダニ・カビなどによる汚染状況をチェックしたり、住宅構造そのものからの原因の有無を調査し、アドハイスするボランティア活動を行っています。月2～3件のペースで患者さんのお宅を訪問、調査やアドハイスを行ってきました。そして、月例の症例検討会の際には、見学会や勉強会などを行い、各専門分野の情報交換に努めてきました。私自身、子供が2人ともアトピー性皮膚炎で、夜中に痒い痒いと仲々寝てくれず、毎日もうろうとした意識の中で子供の背中や手足を擦り、本当に奇妙な病氣だと感じています。

カビ・ダニ・化学物質など、近頃の住宅にはアトピーの原因になる要素が数多くあり、多くの患者さんが苦しんでいる状況ですが、今回の症例報告会では、各班の代表から1年を通じてのそれらに関する中間報告がありました。（一部略）この総会に合わせて、症例番号1-23「調査報告集」（A4 395p）が発刊されましたが、これは平成8年8月までの活動の生データであり、具体的な住環境対策にあたって有用なことと思います。アトピー研は専門技能を有する有志によるボランティア活動であり、会の中立性を保つため、住環境対策に関わる企業などからの寄付を受けておりません。活動へのカンパの意を含めて、ご購入頂ければ幸いに存じます。

（連絡先・木辺まで FAX 052-363-2470）

中部では、第2回「健康セミナー」として、アトピー環境研究会の活動概要などについての勉強会を、6月21日に行います。ぜひ、ご参加ください。

## 生活環境と情報化

中部事業支部事業部会長 熊谷 正信

オフィスから住宅、マンションとマルチメディア・ステーションが急速に普及、拡大しつつあります。

現在、通信配線のデジタル化は、NTTの資料によると、平成8年3月末までのISDN加入申込み数は、51万398件、同年の9月末には71万6732件と半年で20万件以上増加しています。その点からも生活環境（暮らし）と情報化について、もはや無関心ではいられない状況です。このような時代背景から、住宅・都市整備公団では、住宅棟試験研究所八王子試験場に、キッチンとリビングのマルチメディア実験スペースを設け、これからの住宅のあり方を実験中、また、関西文化学術研究都市でも、新世代通信網パイロットモデル事業として、300棟の住宅による“街”としての実験も行われています。こうした点を踏まえ、来年度からは、本格的に、情報化と生活環境の問題について小委員会を設置し、住宅メーカー、通信、流通、経済分野も含めた広角的活動を目指します。

## ふだん着のデザイン交流

中部事業支部北陸部会長 坂田 守正

北陸部会長という役を仰せつかり、まず、連絡体系のあり方についてアンケートを取りました。現在、中部事業支部よりFAXが送られ、会員の方々に再送付する方法がとられています。アンケートでは、FAX送信で良いという結果が大半を占めました。現在数枚の文書を昼夜に分けて送っています。これでは、時間的ロスがあるのでパソコンによるFAX送信も検討しています。一つの提案ですが、本部や中部との情報ネットワークを図り、インターネットによるFAX送信が考えられないものかどうか。まずは情報の流れを迅速にして、交流していくことが大切だと思います。また、地域の情報や個性的な自由意見が交換されることで、活性化も図れると思います。JIDメンバー同志が情報を共有し、新しい時代

に向けて発信できたらと考えています。北陸部会は、こうした「情報交換」から一步一步、交友を深めたいと思います。牛のようにゆっくりと、しかしときには突然走り出すこともあるでしょうが、諸先輩方の知恵とご助言を仰ぎながら「ふだん着のデザイン交流」の中に、輝く北陸部会でありたいと願っています。

## 【 ショールーム見学会と新年交流会 】

去る1月18日、(株)エーディコア様のご好意により、同社ショールームにて、椅子や世界から集めた突板の原材料の見学会を開催、その後、国際デザインセンターに場所を移し、「新年交流会」を開催、平成9年度事業計画などを討議した。



突板材の説明を熱心に聞く参加者たち



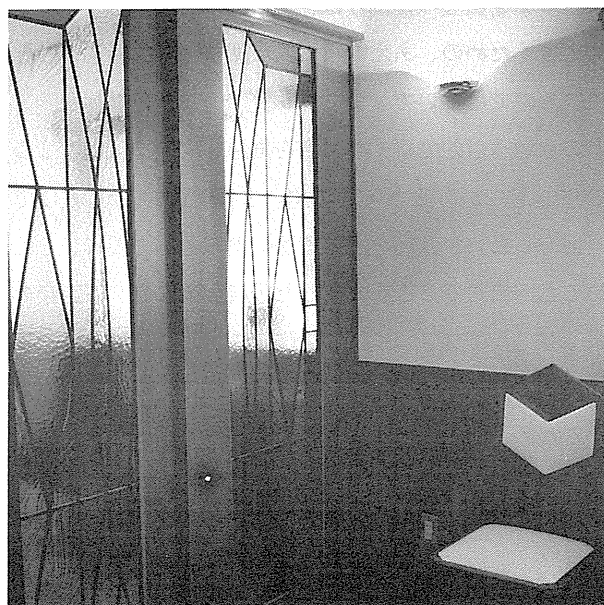
「新年交流会」にて事業計画などを討議

## 【 今、こんな仕事しています 】

中部事業支部事業部会委員 加納 恭子

早いもので独立して1年が経つ中で、独立第1作「都会の中の蔵」が'97インテリアコーディネーションコンテストで「奨励賞」を受賞しました。独立して仕事があるか心配でしたが、回りの人たちに助けられて順調なスタートとなりました。

この作品のお姉様のお宅のリフォームを依頼されたのですが、30年前、帝国ホテルの解体のときお求めになったというF.L.ライトの椅子を修理して使うことを提案。この椅子をモチーフにイメージを広げていきました。居間と食堂の間の間仕切に、スタンドグラスを入れた引戸を採用しました。天井の梁をそのまま残し、壁はイタリア産のしっくいと腰壁を合わせて質感を出しました。築70年の家で、玄関を入ると広い土間があり、左側は田の字の間仕切りのある和室が4部屋あり、リフォームの対象は右側の台所と洋室だったのですが、2つの空間をつなぐ建具にも、空間を損わないように気を使いました。今は実感として、独立して良かったと思っています。



甦るF.L.ライト

## 関西事業委員会の方向

事業委員長 千田 要宗

JID のさらなる有意義性は、会員の間でも耳にする機会が増えてきました。関東事業支部発行の「BOSH」28号にもこの点を取り上げられていたようです。JIDには、展覧会・出版・研究・交流など様々な事業が存在しますが、これらの間に必ずしも組織的な連携が存在していません。この点は、賛否様々。もともと JID は「やりたい人がやりたいことを」が自然で、組織的連携を強めれば「やらねば」になって、少しばかり窮屈になりかねない。そこで関西事業支部では出発点である「やりたい人・やりたいこと」を調整、企画する動きとして事業委員会を設置しました。

私達のデザイン活動は、発表の機会、ビジネスの機会共に、企業の恩恵を大いに受けていますが、80年代以後、企業力があまりに加速され、デザイナーの個の力、個と個が集った私達 JID の持つエネルギーが、企業の持つ組織力の圧倒的なパワーの中で弱まり続けたように思います。しかしバブル崩壊以後、この流れに反して、「個の力の持つ魅力」が再び欲求されつつあるように感じます。事業委員会の役割は、この個の力をウェーブに変えてゆくための、あえて組織的な調整企画力と言うことになるのではないのでしょうか。

こういう目的で事業委員会を推進してゆくには、2つのハードルがあると考えます。まず関西会員が JID で「何をしたいか、何が出来るか」の確認が必要で、したいこと、出来ることを軸にした分科会または、研究会のような「小さなスクラム」を作ることから始めようと思います。次に財源。私の知る限り JID の財源は何かをするためにはあまりに小さく、そのため、何かをするときには企業のご協力をお願いします。JID の徳というか、ありがたいことですが、「個の力の魅力」をウェーブにしてゆくためには、この関係をもう少し、目的的なものにしてゆく必要を感じます。互いに忘しい会員の活動が、

ウェーブにまで高まるためには、継続と蓄積が必要で、1 回きりのイベントでは、力になりにくいと私は考えます。

## 賛助会員のビジネス発言

賛助会員 コクヨ(株) 清家 淳一

### 「KOKUYO Office Integration」

●先進国のオフィスのあるべきカタチを、総合的に、具体的にご提案。

#### コクヨ本社ニューライブオフィス&ショールーム

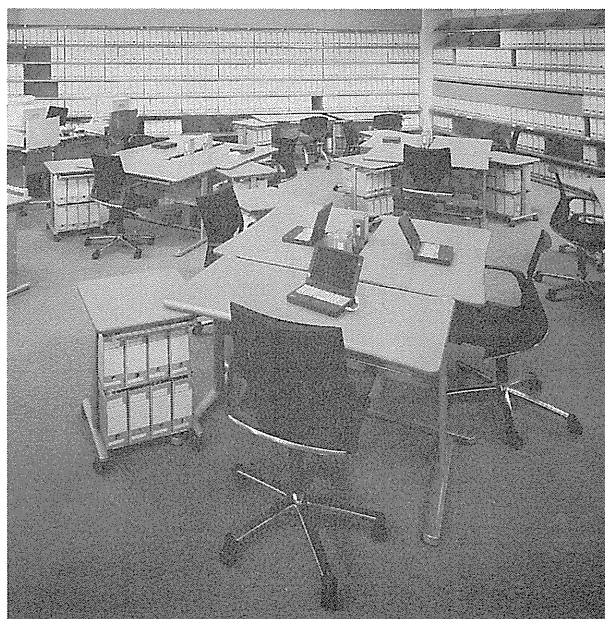
これからのオフィスに必要な要素 — それは、「その空間を共有する人・モノ・情報が結び付き、相互に触れ合い、企業の可能性を最大限に引き出す環境である」とコクヨは考えます。コクヨ本社ニューライブオフィス&ショールームは、オフィスの未来が見える場所。先進のオフィスのあるべきカタチを、さまざまな視点から総合的に、具体的にご提案しています。

#### ●オフィスシステム営業本部のフロア。

床には先行統合配線を敷設し、営業マンはノート型パソコンを携帯して仕事をしています。

#### ●フリーアドレステーブル

営業マンの座席を決めず、フリーアドレスのワークステーションを提案します。



コクヨ(株)オフィスシステム営業本部

### ●グループワークセッティング“シナジア”

シナジアのコンセプトは、“フレキシブルグループワーク”。デスクを中心としたワークステーションから、グループや個人の仕事に組み替えできるワークセッティングへ、業務や組織の変化に対応する次世代オフィスシステムです。

- ・可動式オフィス家具と先行統合配線により、業務に合わせて自由にレイアウト変更ができます。
- ・1人1台の携帯電話と携帯端末によるモバイルワークを実施しています。
- ・情報を共有化し、グループワークとコミュニケーションを強化するため、グループウェアソフトを使用しています。

### ●ケイブ&クラブ

ケイブ&クラブのコンセプトは、“コラボレーション（協創）型ワークスタイル”。集中度の高いレイアウトのケイブと、グループワークや他部門とのプロジェクトのためのクラブにより、情報技術を基盤としたコラボレーションワークスタイルを提案します。

- ・個人ワークステーションでは、お互いに背を向けて座る背面对向式レイアウトを採用。パネルに向かっているときには神経を集中させ、振り返るとスピーディーなコミュニケーションができるよう工夫されています。
- ・交流スペースのクラブは、フェイスツーフェイスでのコラボレーションを目的としています。
- ・共通サービスエリアは、共有の書類管理、ライブラリー、周辺機器の用意されたサービスステーションです。

## 大阪のデザインの動き

(財)大阪デザインセンター 吉田 武司

### ●大阪デザインビジネスコンベンション'97の開催

(平成9年2月18日(火)～19日(水))

マイドーム 大阪3F 展示場)

今日、デザイン業界を取り巻く環境は、厳しいものがあります。この厳しい中で、新たなデザインビジネスの創出のための環境づくりの一つとして、大阪府・大阪市

のご支援のもと、標記コンベンションを開催しました。この展示会で、出展者（デザイン事業所・デザイン関連企業・団体）が、世界に向けて情報を発信し、大阪のデザイナーの素晴らしさをじっくり見てもらうよい機会となりました。

今日のソフト産業の伸展に伴い、デザイナーの資質を問われる時代が、ひしひしと迫ってきています。この時代に応える大阪のデザイナーの活躍が大いに期待されます。



大阪デザインビジネスコンベンション'97会場

### ●デザインフェア OSAKA '97の開催

(平成9年1月24日(金)～29日(水))

近鉄百貨店阿倍野店7階催会場)

市民の皆様にデザインの良さを見て頂ける展示会として、毎年大阪市内の百貨店において開催しています。

大阪デザインセンターでは、長年グッドデザイン選定事業を行っています。展示会では、この選定を受けた商品の展示を中心に、デザイン関連のイベントを開催しています。デザイナーと市民のふれあいの場として今後活動していきたいと思っています。

大阪へお越しのときは、大阪デザインセンター（関西事業支部事務局）へお立寄りください。お待ち申しあげております。



## 暮らしのギャラリー「ID HOUSE」

伊藤 邦隆

暮らしのギャラリー「ID HOUSE」を、3月12日オープンすることが出来た。人々を取り囲む状況が大きく変わろうとしている今日、ID HOUSE がオープンできたことは、私にとっては試練であり、大変意義深い思いを持っている。

これまで人々はひとつの目標に向かって進んできた。それは経済発展、産業発展であった。高度に成熟した今日、人々の価値観に大きな変化が起きようとしている。生活者はそれぞれの暮らしを見直そうとしている。そして経済、産業、暮らしのバランスのとれた発展が望まれる。人々は新しい暮らしの方向を模索し始めている。これまで目指してきた経済産業は、具体的、数値的に明確な目標を持って活動を続けてきた。私たちが暮らしの中で、量的に少ないより、多くを求め、低いものより、高いもの、といったように価値を計測出来ることで、心を満足させてきた。価値観が大きく変わろうとしている中で、人々の感性を満たしてくれる物や状況を、提案することが望まれる。ID HOUSE は、今日このような生活背景の中で、いくつかの目的を持ってスタートする。

### 1. 木の提案

私たちの暮らしの中で根付いてきた木の文化も、次々と開発された新しい素材の中で、次第に暮らしの中から姿を消していく。産業・経済における位置づけも低く、当然係わる人々の地位も決して高くない。新しい人材の育成、技術開発も進展が見られない。価値観が多様化した今日の人々の暮らしの中で再び木に輝きを持たせたい。生活者に対し、また、木に係わり提案する人々にとって、少しでも ID HOUSE がその役割を果たせたらよい。

### 2. 地域の活性化

九州における高速道路網の整備が進

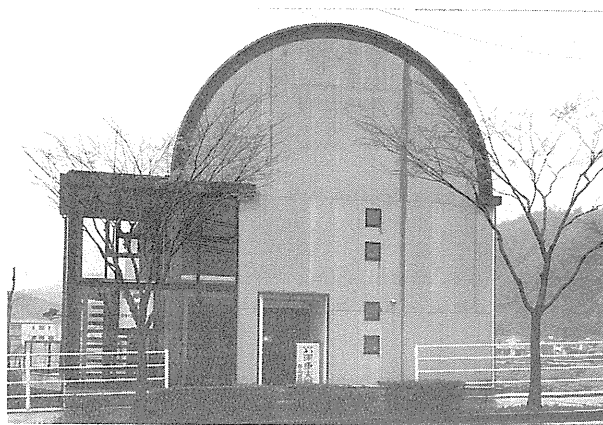
む中、日田地域の持っている色々な資源が価値を高め、見直される。情報通信機器の高度化・ネットワーク化により、誰もが同じ情報を同時に手にすることが出来る。情報の共有化が進むと情報の差別化は、人を通じて受発信出来、本来の情報価値が高まる。質の高い情報が発信できるということは、人が集まる。活性化の基本は質の高い情報が飛び交うことである。

### 3. 新しい暮らしの価値創造

生活者に多目的に使ってもらえるレンタルスペース、家具を中心とした、暮らしのギャラリー、提案ショップが ID HOUSE の主な内容である。生活者は新しい暮らしに何を求めるのか、多様化・個性化が進む中で情報を求める。色々な暮らし方の提案を試みる人々が何かを掴み、生き方のきっかけを掴むことが出来れば良い。

ID HOUSE は欲張りな目的目標を持ってスタートした。器が出来ただけである。本来の目的である質の高い情報の受発信の場を目指す訳であるが、質の高い情報を発信ができるということは、いかに質の高い情報を ID HOUSE が発信できるかということに、総てが掛かっている。

いくつかの目的を達成し、地域の中で ID HOUSE が社会性を持つことが出来たときが、真の意味でのオープンである。



## 九州・山口地区工業高校 インテリアデザインコンテストの10年

溝口 新

JID とは、少々かけ離れた内容ですが、インテリア教育の一端を知って頂きたく、ペンを執ることにした。

全国の工業高校にインテリア科が設置されている学校は数年前までは57校有った。ここ数年学科の当廃合で、インテリア科はなぜか建築科に合併か廃科になって、現在は46校（公立高校）となっている。九州・山口地区も16校有ったが、下関中央工業高校が廃科となり、現在は15校になっている。全国の地区別では、九州地区が最も多く、今後、地域といかに密着したユニークなインテリア教育ができるかが生き残りの課題と言える。

九州・山口地区工業高校インテリア科教育研究会（九イ研）では、毎年各校持ち回りで総会を開催し、インテリア教育について研究協議を実施し、お互いの連携を深めてきた。今年で33年になる。昭和49年の総会で教師だけの意見交換だけでなく、生徒側へなんらかの還元ができないものかとの話し合いの結果、総会時に各学校5点ぐらいの製図作品を持ち寄り、「製図展」を実施することになった。その作品を各学校への巡回展として、生徒たちに直に見せることになった。

実施から2～3年は、各学校から意欲的な作品が出品され、各学校の製図指導なども理解することができた。また、生徒たちも他校の優れた作品を直に見て意欲を燃やし、大いに参考になった。しかし、4～5年を過ぎる頃から製図展が巡回展であったために、全部の学校を巡回するのに1年以上がかり、自校生徒作品が帰ってこないことなどから、優秀作品の出品が少なくなってきた。良い作品は自校生徒指導の資料として残し、一段低い作品を出展するようなことも成されるなど、内容的な問題点と共に、各校の状況把握もされたことから新鮮さも無くなり、昭和57年には中止せざるを得なくなった。

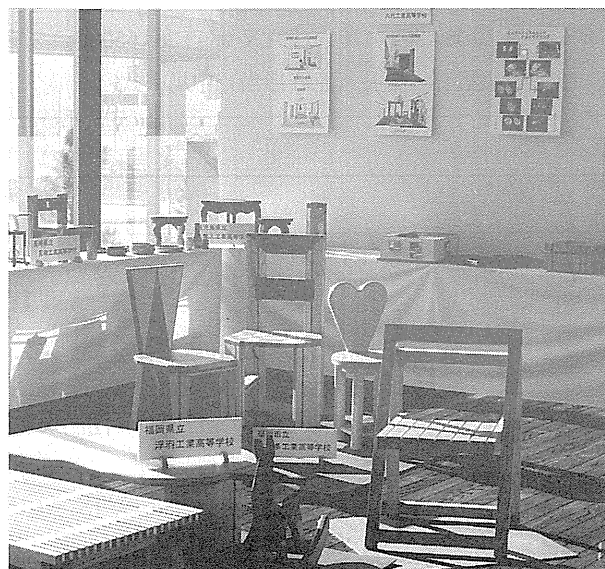
その後も製図展の復活が叫ばれてきたが、なかなか実現しなかった。インテリア科として多様化の時代に対応するには、生徒たちの学習意欲の向上を図り、将来への目的意識を持たせるために、義務出品的な製図展でなく、一步前進したデザインコンテストを実施すべきことから、昭和60年総会時に、当番校の博多工業高校で、「インテリアデザインコンテスト」の実施要項案が提案

された。

企画計画・立案までは簡単にできるが、実施となると資金と運営面が大きな問題として立ちはだかった。全国家具工業連合会九州ブロック支部に計画案を持ち込みお願いし、資金と会場の提供の快諾を頂く。コンテストとして位置付けするためには、それ相応の格付が必要である。審査はどうしようかということから、外部のインテリア関係の団体に、ご協力頂くことがふさわしいということになり、JID九州事業支部にお願いする。山永耕平支部長、石松軍人、森 宣雄、飯田一博、石井信義らの各会員に内容を説明し、ご協力して頂くことになった。

第1回展は、第17回全九州家具展会場「福岡国際センター」にて、昭和63年1月13～14日展示。審査は1月10日（日）博多工高図書館にて上記5名の会員の協力のもと厳正に審査された。12校より58点の出品と参考出品17点（卒業生）で75点であった。回を重ねるにつれ、各学校から多く出品したいとのことで、10回記念展では13校147点となった。第3回展からは記録として残すことと、生徒たちの学習指導の参考にとアルバムを作成し各学校へ配布している。また、今年度は第10回の記念展として、特別に各学校の実習作品展示も実施したが、なかなかの好評だった。

デザインコンテストを10年間開催することが出来たのは、業界の心暖まるご支援と、毎年正月早々の作品審査にご協力頂いた5名の会員諸氏のお陰と深く感謝している。これからの教育は学校現場だけでなく、地域社会、関連業界との連携が益々必要である。人材育成の上からもインテリア業界・JIDはもとより、各デザイン団体の強力なバックアップをお願いしたいと思っている。



第10回記念展 実習作品展

## 仙台デザイン専門学校

(会員番号 3053)

〒984 宮城県仙台市若林区木ノ下2-8-27  
TEL 022-257-0760 FAX 022-299-7744  
インテリアデザイン科 科長 加藤雅敏

## (株)竹中工務店東京本店

(会員番号 3060)

〒104 東京都中央区銀座8-21-1  
TEL 03-3542-7100  
設計部 部長(意匠担当) 東 秀男

## 創造社デザイン専門学校

(会員番号 3054)

〒553 大阪市福島区福島6-25-23  
TEL 06-452-0821 FAX 06-453-7011  
学校事務局 松村真吾

## (株)タジマ

(会員番号 3062)

〒101 東京都千代田区岩本町3-11-13 田島ビルディング4F  
TEL 03-5821-7734 FAX 03-3862-5908  
営業本部 ES 部 山田 修

## 大成建設(株)

(会員番号 3055)

〒163-06 東京都新宿区西新宿1-25-1  
TEL 03-3348-1111  
設計本部 設計第三部 部長 村上公一

## 立川ブラインド工業(株)

(会員番号 3063)

〒105 東京都港区海岸1-11-1 ニュービ7竹芝ノースター  
TEL 03-5404-4500 FAX 03-5401-1038  
営業推進部宣伝課 村田清高

## (株)高島屋

(会員番号 3059)

〒103 東京都中央区日本橋茅場町2-12-7 高島屋茅場町別館  
TEL 03-3668-7443 FAX 03-3668-7479  
設計部長 石井良晴

## (株)龍村美術織物

(会員番号 3064)

〒103 東京都中央区日本橋2-2-20  
TEL 03-3274-2274 FAX 03-3281-7975  
課長 東京店 川嶋利行

## (株)竹中工務店大阪本店

(会員番号 3061)

〒541 大阪市中央区本町4-1-13  
TEL 06-252-1201 FAX 06-538-5502  
設計部 部長(意匠担当) 中馬宗武

## 大光電機(株)

(会員番号 3056)

〒130 東京都墨田区両国4-31-17  
TEL 03-5600-7793 FAX 03-5600-7794  
東京特機開発営業部 次長 高井宏行

1997/3～4

社団法人 日本インテリアデザイナー協会月報(1997年通巻196号) 1997年4月25日発行

発行所/社団法人 日本インテリアデザイナー協会

発行人/泉 修二

〒160 東京都新宿区西新宿3-7-1 新宿パークタワー8F

TEL 03-5322-6560 FAX 03-5322-6559

企画・編集/JID本部事務局 印刷所/有限会社 コーエイ企画